

が く せ い し て ん 学 生 の 視 点

熊本大学の環境に配慮した活動を 学生の視点でご紹介

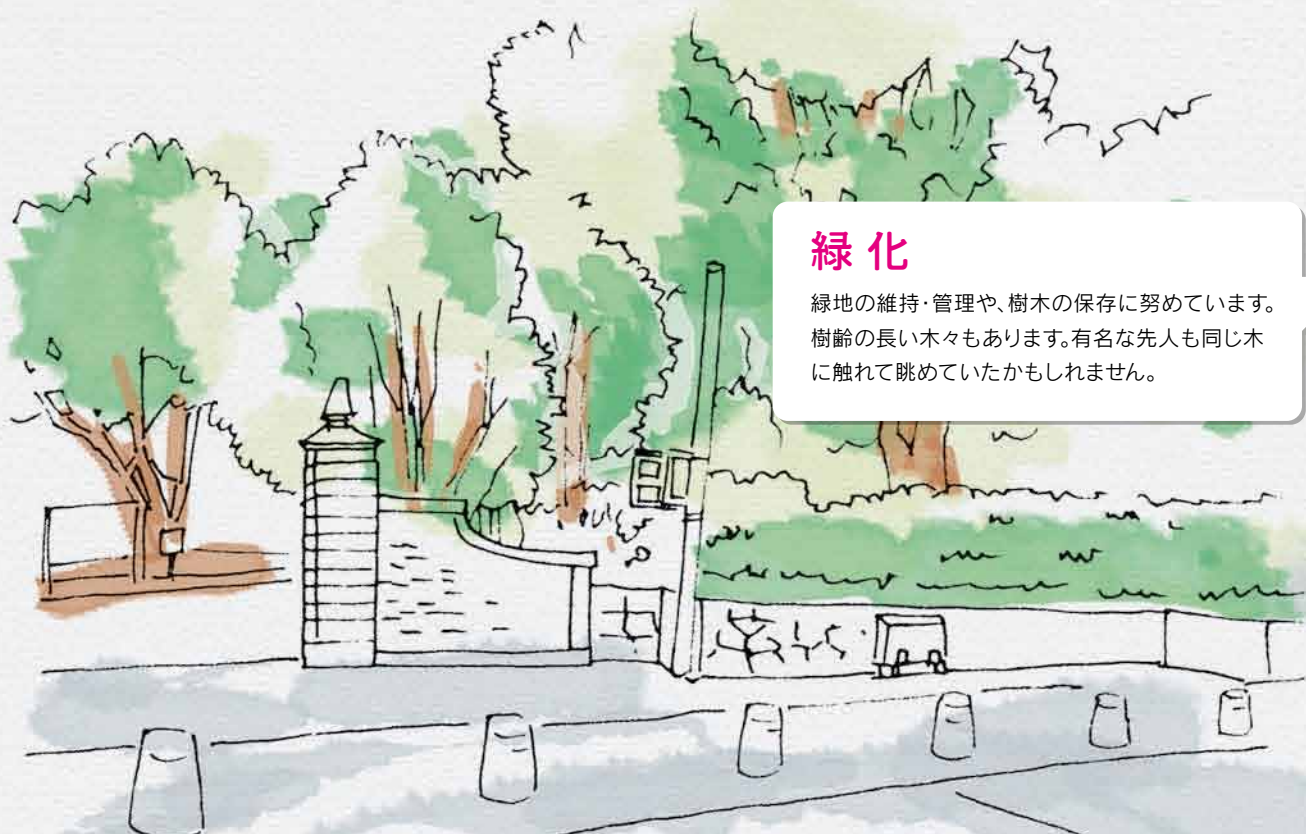
本学では、環境に配慮した様々な取り組みが行われています。そんな取り組みをシーンと共に追ってみました。日頃、学生が生活する中で、どのような取り組みが環境に配慮されているのか？環境のために心掛けるヒントが見つかると思います。

01 通学

電チャリプロジェクト

太陽光で充電した電気自転車を貸し出しています(教職員のみ)。
このマークの自転車が「電チャリ」です。





緑化

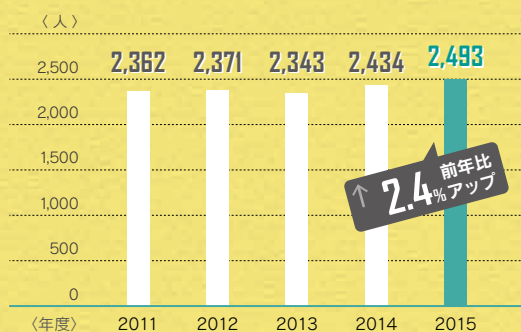
緑地の維持・管理や、樹木の保存に努めています。樹齢の長い木々もあります。有名な先人も同じ木に触れて眺めていたかもしれません。

マイカー通勤・通学の規制

マイカー通勤・通学は、それらの距離や事情によって許可を与えています。



● 過去5年間におけるマイカー通勤・通学者数の推移

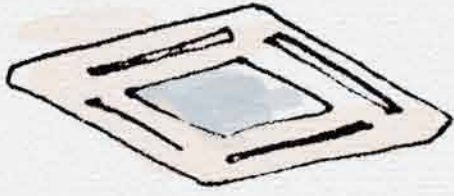


マイカー通勤・通学

マイカー使用は、エネルギー消費や温室効果ガスの排出につながります。公共交通機関や自転車の利用、または徒歩で大学に来ることを心掛けましょう。

がくせい してん 学生の視点

— 熊本大学の環境に配慮した活動を学生の視点でご紹介 —



空調の高効率化

新しい機種に更新しています。また空調フィルターの清掃や設定温度の適正化を行っています。

02 講義室



省エネ標語

毎年、児童、生徒、学生から省エネに関する標語を募集しています。表彰された標語は、各部屋に貼られて紹介されています。

エネルギー
投入量(原単位)は
5年連続で
削減しています

エネルギー投入量
省エネルギーに心掛けましょう。



平成27年度 省エネルギー
推進年間行動目標ポスター



冬季の省エネルギー及び
節電対策ポスター

省エネ標語
ポスターの掲示

照明器具の高効率化

高効率でランプ寿命が長いもの(LED、Hf蛍光灯)を使っています。

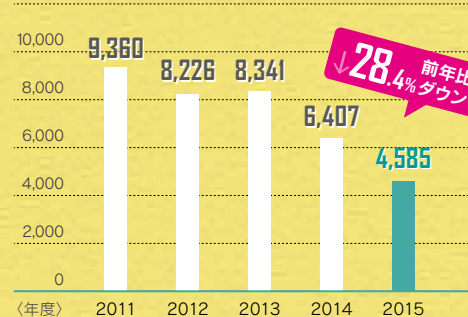


温度計のステッカー

エアコンのコントローラーの近くには、温度計付きの啓発用シールが貼られています。



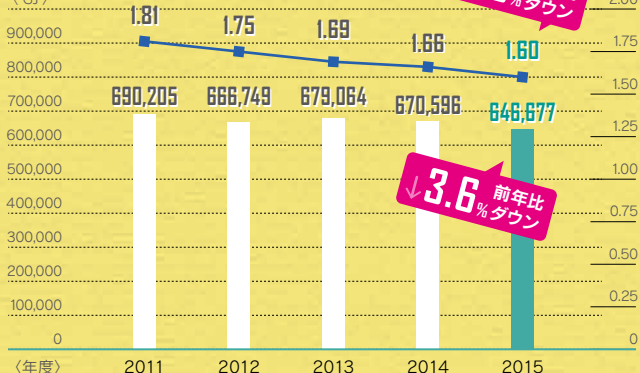
● 過去5年間における照明器具購入量の推移
(本)



照明器具を新しく取り替える際に、高効率ランプを採用しています。

照明器具購入量

● 過去5年間におけるエネルギー投入量の推移
(GJ) の推移 (延床面積原単位(GJ/m²))



ごみの分別

ごみは、リサイクル原料と分別しています。



03 休憩時間

節水のステッカー

手洗い場の近くには、啓発用シールが貼られています。



節水 (お手洗い)

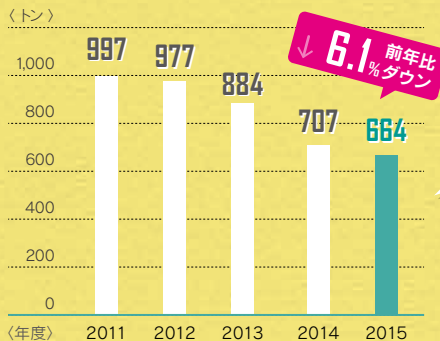
節水用トイレを使っています。また女性用お手洗いには、トイレ用擬音装置を設置しているところもあります。

節水 (手洗い場)

水道は、地下水を浄化して使用しています。節水コマを水道の蛇口に付けています。

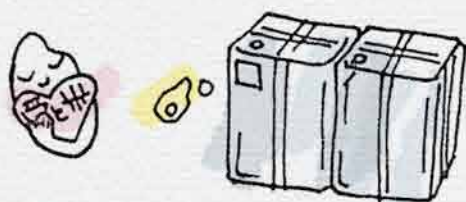


● 過去5年間における可燃物排出量の推移
(トン)



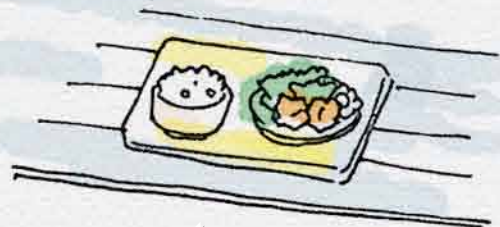
可燃物排出量は
10年連続で
削減しています

可燃物排出量
リサイクル原料を除いたゴミは、可燃物または不燃物の廃棄物として廃棄されます。



食堂

食堂廃油リサイクルを行っています。
また無洗米の使用によって、水の使用量を削減しています。



容器類

弁当容器はリサイクルされています。弁当容器10個に対して、100円お返しするシステムです。
ペットボトルはリサイクルを行っています。



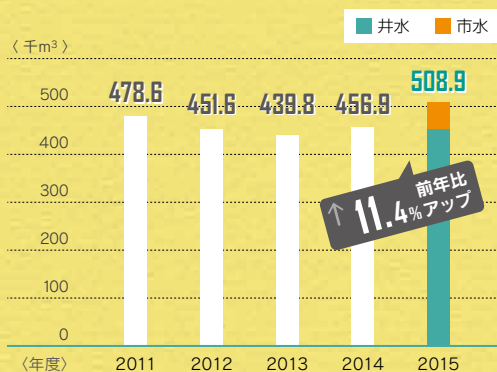
04 食堂・売店

売店

エコマーク付きの商品を多く取り扱っています



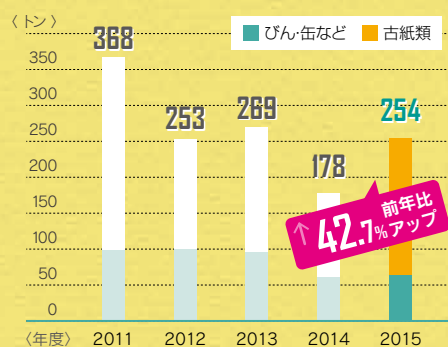
● 過去5年間における本学の水資源投入量の推移



熊本大学の水は、地下水を利用しています（一部市水利用）。

水資源投入量

● 過去5年間におけるリサイクル原料収集量の推移



リサイクル可能なものは、リサイクル原料として収集されます。

リサイクル原料収集量

がくせい してん 学生の視点

— 熊本大学の環境に配慮した活動を学生の視点でご紹介 —



安全衛生巡視

実験を行うためにはルールを守る必要があります。そのルールが守られているか、確認しています。

作業環境測定

有害な化学物質を実験で扱うときは、作業環境測定によって、どこまで飛散しているか調べて、実験者の健康を守っています。

廃棄物

実験に伴って発生する実験廃液や固形廃棄物は、ルールに従って分別・廃棄しています。



古紙の回収

ルールに従って、古紙を回収しています。

05 ゼミ室・研究室



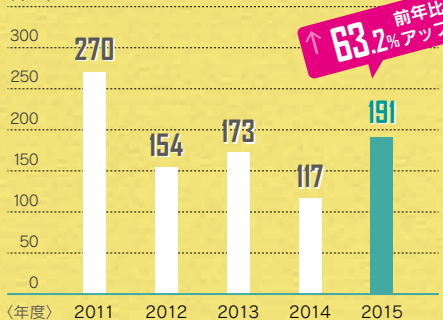
紙資源の使用削減

両面印刷、裏紙使用が推奨されています。

省エネ

ゼミ室でのパソコン・空調など、省エネに心掛けています

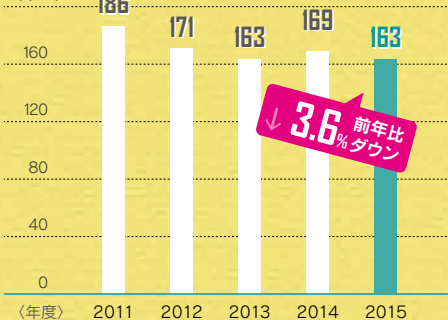
● 過去5年間に於ける古紙類収集量の推移
(トン)



コピー用紙などの古紙はリサイクルされています。機密文書を裁断した紙くずもリサイクルされます。

古紙収集量

● 過去5年間に於けるコピー用紙購入量の推移
(トン)



大学の多くのシーンで紙が使用されています。

紙資源投入量

事業報告

水俣市は2008年に、我が国最初の環境モデル都市に認定されました。認定された都市は、温室効果ガスを、2005年を基準に2050年までに50%以上削減することが求められています。このような高い目標を実現するためにはその排出量を正確に把握し、削減効果の高い実践が期待されます。しかし多くの地方都市は、そのノウハウを持つ人材を確保が困難な状況にあります。そこで外部委託されることが多いのですが、それは市の財政を圧迫しています。そこで私たちは水俣市自身が各種社会調査を行い、その結果を効果的な政策につなげる事ができる人材を養成するため講習会を企画しました。それはこれまで本学が同市において、温室効果ガス排出量など各種社会調査を継続的に行ってきた実績があるからです。

今後は、本事業で学んだ市職員が、地域に密着した各種の情報収集を行い、エビデンスに基づく効率的な行政が行われることになると期待されます。

体験した活動内容（水俣市職員による執筆）

私たち行政職員は、地域の実情を把握し、地域にあった効率的な政策の実施を求められています。特に環境モデル都市である本市は、温室効果ガス排出量の大幅な削減を行う責務があります。そのためには、まず現状を正しく知る必要があるのですが、小規模自治体なためそのノウハウを有する人材は少なく、外部委託をする予算もありません。

そこで、今回本市は、本市で各種実態調査を実施してきた熊本大学に、市職員への地域調査手法のための人材養成を御願いしました。養成事業は、演習を交えた講義形式で行われ、私も参加しました。演習では水俣市の実データをを用いていたので、わかりやすく、調査票の設計方法からデータ集計とその評価法まで一連の作業を学ぶことができました。



今後は、私たち自身で、地域の社会調査、分析・評価できると感謝しております。また環境モデル都市実現のため、温室効果ガス削減のPDCAサイクルを構築したいと考えています。

文部科学省 地(知)の拠点

環境モデル都市水俣における
温室効果ガス削減目標達成のための支援事業

2015年度
COC事業
地域貢献型



工学部附属グローバル
ものづくり教育センター
特任教授 田中昭雄

分類：環境マネジメント活動

キーワード：環境マネジメント

平成28年
熊本地震



学生ボランティア

4月14日・16日に発生した
「平成28年熊本地震」後の
学生たちの様々な活動や
取り組みをご紹介します。



御船町避難所の設営

熊本地震後、本学の体育館が避難指定
場所となり、学生が運営を行った。
(紫熊祭、志法会、体育会、組織部等)



「416」として振り返りなど行っている